令和4年度事業報告

　　　　　　　　　　　　　　　　　　障害者支援施設　春叢園

 **事業報告の概要**

１、支援内容

（１）日中活動支援（生活介護）

 　 利用者のニーズに沿った個別支援計画に基づき、利用者の特性、能力等を勘案し利用者個々に合わせた日中活動を支援した。食事、入浴、排泄等の介護や日常生活上の支援を提供すると共に軽作業等の生産活動や制作活動の機会を提供し利用者の身体能力の向上や日常生活能力の維持・向上を図った。定期的にモニタリングを行い、支援内容の検証を行った。

　　若年層の自閉症の方に対し多様なニーズに適切に対応し個々の思いや個性を尊重し、一人ひとりに合わせた支援プログラムを創出、実践することを目的に「なごむ班」とし、わいわい村での活動を実施した。

　　65歳以上の方に対し普段の生活の中で刺激や達成感を感じ、元気に過ごすと言う目的で園内通貨「すんそー円」活動を実施した。個々に目標を設定し達成することでポイントがたまり園内通貨である「すんそー円」に交換でき、月2回開催の園内カフェ、マーケットでの使用ができ、それぞれのやりがいに繋がっている。

文化芸術活動では、リモートにて複数の事業所と連携し創作の機会を提供した。

10月にわいわい村において『阿波白鷺わいわい芸術・スポーツ祭』を開催。

スポーツ面では『全国障がい者スポーツ大会栃木大会』へ1名の利用者が徳島県代表選手として選出され陸上競技に参加した。

作業については、無理のない作業参加と作業を通じ持続性や意欲の向上に努めた。

「わいわい村」の整備や園芸作業には班に関係なく参加し、収穫した野菜や果物は食事提供を、またJAグループ「とくとくターミナル」や「えがお」での販売を行い作業工賃として分配した。

スポーツ面はコロナ禍のため大会がほとんど中止となったが、リモートにて徳島県障害者スポーツ協会主催のフライングディスク大会、ボッチャ大会が開催されボッチャ大会優勝、フライングディスク大会は準優勝と輝かしい成績を収めた。

　　その他、生活にゆとりを持たせるため、利用者一人ひとりのニーズや社会知識の取得レベルに応じたグループを編成、自主活動を通じて個々の要望に応じた外出等を計画していたが活動自粛となり出来る範囲での活動に変更した。

作業については、利用者の年齢や能力に応じたものとし、無理のない作業参加と作業を通じ持続性、確実性、意欲等の向上に努めた。また、65歳以上の利用者の作業参加については心身面への負担を配慮して本人の意志を尊重して行った。

　また、就労意欲のある利用者については、園外実習の実施についてコロナ感染対策を行いながら提供することができた。

（２）施設入所支援

施設入所支援については、利用者のニーズに沿った個別支援計画に基づき利用者が健康で充実した生活が送れるよう支援した。障害の程度や特性を配慮し夕方から翌朝までの食事・入浴・排泄・睡眠等の日常生活全般のサービスを提供した。

（３）生活介護、施設入所支援事業、年間利用者数

生活介護（利用定員：59名）　　延べ利用者数 14,636 名　開所日数365日

施設入所支援（利用定員：40名）延べ利用者数 13,905 名　開所日数365日

（４）食 事

 食事については、利用者の平均年齢が高く咀嚼・消化吸収・代謝能力等に個人差があり配慮を必要とすることから、個別対応に重点を置きながら利用者の立場に立った食事を心掛けた。又、新型コロナウイルス、０-157をはじめとする感染症防止のため、衛生面に細心の注意を払い食事を提供した。コロナ禍のためアクリル板つい立を使用した。

（５）健康管理

 健康管理については、疾病の早期発見、感染症対策に重点をおき各種検診の実施、日頃から手洗いやうがいの励行、手指消毒、予防接種、空気清浄機の設置により予防に努めた。

　　また、利用者の特徴として高齢者が多いことから骨塩量を測定、骨粗鬆症の治療とともに予防策として歩行訓練やリハビリ器機による機能訓練を実施した。

　　新型コロナウイルスが流行したため、ワクチン接種の実施や感染対策マニュアルを作成し細心の注意を図りながら感染予防に当たった。

（６）地域交流

 コロナ禍のため自粛となる。

２、短期入所事業、日中一時支援事業

　　短期入所、日中一時支援の受入れについても限られた条件での支援提供となった。

　　短期入所についてはコロナ対応として通所利用者のみの受け入れとした。

３、職員研修

施設内研修については、課題抽出し継続して実施し職員の資質向上に努めた。施設外研修

は日本知的障害者福祉協会、徳島県知的障害者福祉協会、徳島県社会福祉協議会、その他関係機関が主催する研修会はリモートでの参加となった。

４、安全と防災

　　火災、震災、水害による避難訓練を月１回計画していたがコロナ禍のため密になる事を回避し、ねむのきとの合同訓練は自粛した。原則としては人命救助に重点をおいた早期発見、早期避難の原則に従い訓練を実施した。実際の訓練時には自動通報での非常通報装置の使用をして訓練を行った。また、防災器具の検討を進め整備を行った。

５、福祉サービス苦情解決事業

 福祉サービス苦情解決事業の受付体制を整備し、福祉サービス苦情解決事業関係者会議を書面報告にて開催した。苦情1件、相談2件であった。

６、社会貢献活動

日々の生活において制作活動やスポーツに取り組んでいる中で自己表現を披露する場として又、地域交流、社会貢献も含めイベントを実施。10月にわいわい村「ログハウス」において阿波白鷺わいわい芸術・スポーツ祭を開催し草の実学園、吉野川育成園、松茂町絵画同好会とも連携しアート展・ライブを開催。YouTubeにてリモート配信した。

　**事業報告の詳細　令和4年度**

**１　支援内容**

（１）日中活動支援(生活介護)

利用者のニーズに沿った個別支援計画に基づき、利用者の特性、能力等を勘案し利用者個々に合わせた日中活動を支援した。食事、入浴、排泄等の介護や日常生活上の支援を提供すると共に軽作業等の生産活動や制作活動の機会を提供し利用者の身体能力の向上や日常生活能力の維持・向上を図った。9月、3月にモニタリングを行い、支援内容の検証を行った。

文化芸術活動においてコロナ禍のため予定していた形での活動が難しくなり工夫をこらして実施した。社会福祉法人 悠林舎 障害者支援施設シーズが開催する芸術祭へのコラボレーションとしてワークショップにリモートにて参加。

10月にわいわい村「ログハウス」において阿波白鷺わいわい芸術・スポーツ祭を開催し草の実学園、吉野川育成園、松茂町絵画同好会とも連携しアート展・ライブを開催。YouTubeにてリモート配信した。わいわい村近隣の企業である旭食品の協賛を頂いた。

スポーツ面では全国障害者スポーツ大会栃木大会へ1名の利用者が徳島県代表選手として選出され陸上競技に参加した。県選抜チームのバスケットボール、ソフトボールチームの選手はコロナの状況を踏まえ、適宜練習に参加した。

　　その他、生活にゆとりを持たせるため、利用者一人ひとりのニーズや社会知識の取得レベルに応じたグループを編成、自主活動を通じて個々の要望に応じた外出等を計画していたが活動自粛となり出来る範囲での活動に変更して実施した。

作業については、利用者の年齢や能力に応じたものとし、無理のない作業参加と作業を通じ持続性、確実性、意欲等の向上に努めた。また、65歳以上の利用者の作業参加については心身面への負担を配慮して本人の意志を尊重して行った。

　　また、就労意欲のある利用者については、コロナ禍のため園外実習の機会を制限することもあったが従来通り実施した。

野菜栽培、肥料詰め作業については計画を縮小し実施。作業への取り組みを通して労働意欲の啓発や、確実性、協調性、責任感等の向上に繋がる支援計画を縮小しながらも実施した。

「わいわい村」の整備や園芸作業には班分けに関係なく参加し、季節に応じた作業に取り組み、収穫した野菜は食事提供したりJA産直市松茂町「とくとくターミナル」「えがお」での販売を行った。

高齢者への取り組みとして作業療法士、柔道整復師による施術訓練を個別に実施しており、利用者の身体機能の維持・向上に努めた。訓練内容は、主に上下肢関節可動域訓練を３階地域交流室に設置してあるリハビリ器機を使用し利用者の身体状況に応じた訓練を行った。

65歳以上の方に対し普段の生活の中で刺激や達成感を感じ、元気に過ごすという目的で園内通貨「すんそー円」活動を実施した。個々に目標を設定し達成することでポイントがたまり園内通貨である「すんそー円」に交換、月2回開催の園内カフェ、マーケットでの使用ができる取り組みで、それぞれのやりがいに繋げた。

行事については、利用者の年齢に幅があるため、疾病や身体状況等に応じた合理的配慮を行いながら自己選択、自己決定出来るよう努めた。

若年層の自閉症の方に対し多様なニーズに適切に対応し個々の思いや個性を尊重し、一人ひとりに合わせた支援プログラムを創出、実践することを目的に「なごむ班」とし「わいわい村」での活動を実施した。

1. 行事関係

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 行 事 内 容 | 参加人数 | 月 | 行 事 内 容 | 参加人数 |
| 4 | ・誕生会・お花見 | 2名 57名 | 10 | ・誕生会・社会学習・お月見会 | 14名7名49名 |
| 5 | ・誕生会 | 7名 | 11 | ・誕生会・社会学習 | 13名16名 |
| 6 | ・誕生会・社会学習 | 7名5名 | 12 | ・誕生会・社会学習・クリスマス会 | 8名6名 62名 |
| 7 | ・誕生会・社会学習 | 3名6名 | 1 | ・新年会・社会学習・誕生会 | 62名3名6名 |
| 8 | ・誕生会 | 3名 | 2 | ・社会学習・誕生会 | 6名5名 |
| 9 | ・誕生会・社会学習 | 6名3名 | 3 | ・社会学習・誕生会 | 9名6名 |

②　スポーツ、文化活動等

 　 各種スポーツ大会や芸術祭に積極的に参加や出展しており、自信や生き甲斐に繋がった。中止されたイベントもあるが、リモートでの活動に参加した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 月 | 参 　加 　行 　事 　名 | 参 加 人 数 |
| 4 | 全国障害者スポーツ大会 予選会（バスケットボール） | 1名 |
| 5 | 第28回 放美展ノーマピックスポーツ大会 | 2名15名 |
| 7 | 第2回 Tシャツデザイン展パラアートTOKYO第3回 しゅんそーりんぴっく | 　　　40名 1名　　　55名 |
| 8 | 第8回 障がい者アーティストの卵発掘展 | 6名 |
| 9 | 松茂町資料館講座作品展 ひびき展シーズとのオンラインワークショップ | 　　　9名 　　5名 |
| 10 | エナジー2022阿波白鷺わいわい芸術・スポーツ祭全国障害者スポーツ大会 |  13名 50名　　　1名 |
| 11 | パラリンアートカップ2022ノーマピックボウリング大会松茂健活プロジェクト第8回ボッチャ大会第2回特別支援学校対抗ボッチャ大会 | 　　　2名　　　4名　　　2名　　　5名　　　6名 |
| 12 | ユニバーサル芸術祭スローリーライブ2022ユニバーサル芸術祭サテライト展 | 13名1名 |
| 2 | ノーマピックオンラインフライングディスク大会パラアスリート　バスケットボールクリニック | 5名1名 |

③　園外実習

就労意欲のある利用者を対象に、感染対策を講じながら概ね従来通り実習に参加した。令和4年3月より新規実習先、佐々木農園、住宅型有料老人ホーム「大和」の2ケ所で練習を行い、令和5年度より実習に繋がるよう取り組んだ。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 実 習 先 | 人 員 | 内容 | 実習状況 | 実習手当(時給) | 所 在 地 |
| トップスター | 2名 | 清掃作業 | 週4日・週2日 | 400円 | 松茂町 |
| トップスター | 1名 | 清掃作業 | 週3日３ | 500円 | 松茂町 |
| トップスター | 1名 | 清掃作業 | 週2日 | 300円 | 松茂町 |
| なるとや家具 | 1名 |  家具組立 | 週2日 | 480円 | 鳴門市 |
| 小野農園 | 1名 | 　さつま芋　出荷作業 | 週3日 | 500円 | 松茂町 |

(２）施設入所支援

①　実施内容

 施設入所支援では、利用者のニーズに沿った個別支援計画に基づき健康で充実した生活が送れるよう支援した。障害特性に配慮し夕方から翌朝までの食事や入浴、排泄等の日常生活全般のサービスを提供し、感染対策を含む健康管理、栄養管理、衛生面での支援を専門職との連携を図りながら行った。

（３）生活介護、施設入所事業、月別利用者数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 月 | 生活介護（利用定員：59名） | 施設入所支援（利用定員：40名） |
| 延べ利用者数(名) | 開所日数(日) |  延べ利用者数(名） |  開所日数(日） |
| 4 | 1,276 | 30 | 1,146 | 30 |
| 5 | 1,301 | 31 | 1,157 | 31 |
| 6 | 1,206 | 30 | 1,139 | 30 |
| 7 | 1,266 | 31 | 1,199 | 31 |
| 8 | 1,154 | 31 | 1,166 | 31 |
| 9 | 1,054 | 30 | 1,141 | 30 |
| 10 |  1,301 | 31 | 1,194 | 31 |
| 11 |  1,235 | 30 | 1,165 | 30 |
| 12 | 　　　1,297 | 31 | 1,240 | 31 |
| 1 |  1,128 | 31 |  1,142 | 31 |
| 2 | 　　　1,136 | 28 | 1,047 | 28 |
| 3 | 　　　1,282 | 31 | 　　　1,169 | 31 |
| 計 |  14,636 | 365 | 13,905 | 365 |

（４）食　事

 本年度の食事献立、栄養管理に関する業務の基本的な支援内容は次の通りとした。

　ヘルスケアサービスの一環として、年齢や障害の特性に応じて、適切な栄養量及び内容の食事を確保するための栄養管理、衛生管理を基本とし、利用者一人ひとりの栄養改善や食生活の質の向上のために、他職種と協働して栄養ケア・マネジメントを行い、適切な栄養ケアを提供した。

個人の嗜好を尊重すると共に、バランスの取れた食事が提供できるよう良好な食生活について支援を行った。

利用者の希望を取り入れ週1回の手作りおやつを実施した。

①　食事摂取量

　　 食事摂取基準を基に提供した食事の平均食事摂取量は次の通りである。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ｴﾈﾙｷﾞｰ(kcal) | ﾀﾝﾊﾟｸ質(g) | 脂肪(g) | Ca(mg) | Fe(mg) | VA(g) | VB1(mg) | VB2(mg) | ﾅｲｱｼﾝ(mg) | VC(mg) | 食物繊維(g) | ｶﾘｳﾑ (kcal) |
| 一人一日平均給与量 | 1907 | 74 | 50.3 | 576 | 8.2 | 739 | 1.15 | 1.11 | 16.7 | 115 | 17.5 | 2672 |
| 食事摂取基準目標量 | 1900 | 62～95 | 42～64 | 700～ | 9.0 | 790～ | 1.19 | 1.34 | 13～250 | 100 | 20 | 2830 |

1. 個別必要エネルギー

 　 施設平均の食事摂取基準と共に、個々の推定エネルギー必要量と蛋白質量を算出し、個人に対応した食事を目標とし食事摂取量を2,400~1,200kcalまで10段階に設定した。

 　生活習慣病予防の観点から、バランスの良い食生活に留意した食事の提供を心がけた。

1. 食品材料と調理

 　生鮮食品は当日納品を原則とし、調理については食品衛生の三原則である清潔・迅速・冷却(加熱)に努めた。

 納品時温度・加熱調理中心温度・調理終了時間を日誌に記録し、調理は適温給食を心がけた。

④　食品衛生

 食品取扱者・厨房と食品の衛生管理・冷凍冷蔵庫の温度管理・廃棄物等について毎日チェックをして食中毒防止に努めた。

　　また食事担当者の健康状態の把握の為、定期的に腸内細菌検査を実施した。

⑤　特別食

 ア　療養食

　　医師の指示により実施した療養食及び刻み食等の延べ食数は次の通りである。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 入所利用者 | 通所利用者 | 短期入所・その他 |
| 延べ食数 | 40,716 | 4,206 | 184 |
| 減 塩 食 | 3,890 | 0 | 0 |
| 糖 尿 食 | 6,572 | 460 | 10 |
| 脂質異常症食 | 5,969 | 0 | 0 |
| 粥　 食 | 2,499 | 0 | 0 |
| ソフト食 | 0 | 0 | 0 |
| きざみ食 | 19,692 | 1,870 | 173 |

イ　行事食

 　昔ながらの行事食や季節感のある料理をできるだけ手作りで提供できるように努め、献立に変化をもたせ利用者に喜ばれるように配慮した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 月日 | 行事名 | 行事食の内容 |
| 4/14/5.6 | 開園記念日花見 | 赤飯・かつおのたたき花見弁当 |
| 7/7 | 七夕 | 七夕そうめん |
| 8/4 | 土用の丑 | ミニうな丼 |
| 9/16 | 敬老の日 | 赤飯・紅白饅頭 |
| 10/13 | お月見会 | おにぎり・お月見焼き・焼き鳥・フランクフルト枝豆・トウモロコシ・綿菓子・フルーツ |
| 12/22.2312/2812/31 | クリスマス会餅つき（中止）大晦日 | サンドイッチ・フライドチキン・ハンバーグナポリタン・フライドポテト・コーンスープ・ケーキ餡入り餅年越しそば |
| 1/11/19 | 正月新年会 | おせち弁当購入 |
| 2/3 | 節分 | 巻き寿司 |
| 3/3 | ひな祭り | 雛寿司・雛あられ |

・複数献立

　　食事に変化をつけると共に嗜好を尊重し自主性を伸ばす狙いで実施した。

・選択メニュー・バイキング

　　利用者が自分で選び決定することを目標に週1回実施した。バイキングはコロナ感染防止のため実施していない。

・誕生日特別メニュー

　　個別に特別メニューの中から食べたい料理の希望を聞き、誕生日に提供した。

（５）健康管理

感染症対策や疾病の早期発見、早期治療に努めており、手洗いや手指消毒の励行、インフルエンザ予防接種の実施、新型コロナウイルスの流行によりワクチン接種や感染対策マニュアルを作成し細心の注意を図りながら感染予防に当たった。

うがいの励行、空気清浄器、加湿器を置き配慮した。

　年2回の健康診断を始め、結核検診、歯科検診等の検診を実施した。

　利用者の高齢化が顕著であり、骨粗鬆症の治療を行うとともに筋力低下防止のため、室内運動やリズム体操を実施した。歩行訓練やリハビリ機器による訓練にも取り組んだ。

①　検診、通院状況

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 各種検診 | 受診者数 | 通院状況 | 受診者数 | 通院状況 | 受診者数 |
| 歯科検診 | 56名（うち通所は17名） | 歯　　科 | 20名(うち通所は0名) | 耳 科 | 9名 |
| 内科検診 | 45名（うち通所は7名） | 眼　　科 | 10名(うち通所は0名) | 循環器科 | 5名 |
| 結核検診 | 57名（うち通所は17名） | 内　　科 | 21名(うち通所は0名) | 泌尿器科 | 5名 |
|  前立腺癌検診 | 11名 | 精 神 科 | 27名(うち通所は0名) | 皮膚科 | 21名(うち通所は0名) |
| 婦人科検診 | 乳がん3名 | 整形・外科 | 16名(うち通所は0名) | 婦人科 | 1名 |

②　入院状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 利 用 者 | 病　　名 | 入 院 先 | 期　　間 |
| 男性(69歳) | 前立腺がん検査入院 | 鳴門病院　泌尿器科 | R4.6/15 ～ 6/17 |
| 女性(72歳) | 肺炎 | 芳川病院　内科 | R4.7/14 ～ 7/21 |
| 女性(72歳) | 肺炎 | 芳川病院　内科 | R4.10/14 ～ 10/31 |
| 男性(43歳) | てんかん発作 | 鳴門病院　脳神経外科 | R4.10/19 ～ 10/20 |
| 男性(70歳) | 前立腺がん全摘術 | 徳島大学病院　泌尿器科 | R5.1/13 ～ 1/24 |

（６）地域交流

コロナ禍のため、自粛となる。

①　ボランティアの状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏 名(団体名) | 活 動 内 容 | 回数(延人数) | 住　所 |
| 大星理容店 | 理 美 容 奉 仕 | 10回(20名) | 鳴門市 |
| ＡＥＴ美容室 | 〃 | 9回(18名) | 徳島市 |
| 大森　一子 | 〃 | 10回(10名) | 松茂町 |
| 三木　秀子 | 生 花 指 導 | 21回(21名) | 松茂町 |
| 徳島県職員労働組合ボランティア | 果 物 の 収 穫（わいわい村収穫祭） | 1回（4名） |  |

①　地域交流室の活用

生け花指導、利用者のレクリエ－ション、リズム体操や研修の場としての活用し、地域の会合は自粛した。

**２　短期入所事業、日中一時支援事業**

（１）短期入所事業

短期入所事業については、障害(児)者を持つ保護者が社会的理由、私的理由等から一時的に保護が必要となった場合に必要なサービスを適切に行うとともに、地域との結びつきを重視し、利用される障害(児)者の身体及び精神の状況、その置かれている環境に応じて必要な保護を行う。

（２）日中一時支援事業

日中一時支援事業については、障害(児)者の日中活動の場を確保し、見守り、社会に適応するための日常訓練を実施し、日常生活の充実を図るとともに、家族の就労支援及び一時的な休息を図ることを目的として実施している。

・月別利用者数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 月 | 短期入所事業 | 　　　　日中一時支援事業 |
| 利用者数(名) | 延べ利用日数(日) |  利用者数(名） |  延べ利用日数(日） |
| 　　　4 | 2 | 25 | 0 | 0 |
| 5 | 2 | 24 | 1 | 1 |
| 6 | 3 | 23 | 0 | 0 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | 3 | 17 | 1 | 1 |
| 12 | 2 | 　　 　5 | 0 | 0 |
| 1 | 0 | 　0 | 0 | 0 |
| 2 | 2 |  6 | 0 | 0 |
| 3 | 2 | 9 | 2 | 2 |
| 計 |  16 　 | 109 | 4 | 4 |

**３　職員研修**

（１）施設外研修

 職員の資質向上を目指し日本知的障害者福祉協会、徳島県知的障害者福祉協会、徳島県社会福祉協議会、その他関係機関等が主催する研修会に出席した。

・月別研修内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| R4.4 | 徳島県知的障害者福祉協会 理事会 | 3名 |
| 対人援助のための接遇研修 | 1名 |
| 　　 5 | チームリーダーの役割を果たすために | 1名 |
| 第１回四国地区政策委員会 | 1名 |
| 　　　6 | 入所系事業所交流会 | 2名 |
| 徳島県障がい者スポーツ協会総会 | 1名 |
| 働く人のメンタルヘルス | 1名 |
| 中堅職員ファーストステップ研修 | 1名 |
| インクルージョン活動に向けた委員会設立説明会 | 1名 |
| 徳島県知的障害者福祉協会定期総会 | 3名 |
| 徳島県知的障害関係施設職員研究集会 | 1名 |
| 障害者施設職員研修会～利用者主体の支援に向けて～ | 1名 |
| 対人援助職のためのコミュニケーション研修 | 1名 |
| 7 | 改正育児・介護休業法、パワハラ対策等説明会 | 1名 |
| 松茂町企業・職域人権啓発推進協議会 | 1名 |
| 障がい者スポーツ協会第１回企画委員会 | 1名 |
| クレーム対応力強化セミナー | 　1名 |
|  | 第１回生活支援部会 |  2名 |
|  | 四国地区知的障害関係施設長会議 | 1名 |
|  | 中国・四国地区知的障害関係職員研究協議会 | 1名 |
| 8 | 全国知的障害関係施設長等会議 | 　 1名 |
| 記録の書き方研修 | 　 1名 |
| とくしま福祉の職場定着支援セミナー | 1名 |
| 正しい口腔ケアで誤嚥性肺炎ゼロを目指し | 1名 |
| 9 | 障がい者芸術・文化活動支援センター第１回企画委員会 | 1名 |
| 松茂町企業・職域人権啓発推進協議会 | 　1名 |
| 第１回日中活動支援部会 | 　 1名 |
| 社会福祉法人におけるBCP(初級)研修 |  1名 |
| 知的障害者福祉協会第2回理事会 | 1名 |
| 意思決定支援と虐待防止に関する研修会 | 1名 |
|  | チームリーダーの為のステップアップ研修 |  1名 |
| 10 | 第2回地域支援部会 | 1名 |
| 社会福祉法人におけるBCP(初級)研修 | 1名 |
| 第１回総務部会 | 1名 |
| 福祉職場のリスクマネジメント研修 | 1名 |
| 第2回生活支援部会 | 1名 |
| チームリーダーの為のステップアップ研修 | 1名 |
| 11 | 福祉職場のメンタルヘルス研修 | 1名 |
| リスクマネージャー養成研修会 | 1名 |
| 多職種交流セミナー | 1名 |
| 社会福祉法人の法令遵守研修会  | 1名 |
| 社会福祉法人におけるBCP(初級)研修会 | 1名 |
| 介護施設における新型コロナウイルス感染症への対応 | 3名 |
| 四国地区知的障害関係職員研修会 | 1名 |
| コロナ禍における重度障害者の運動等を通じた健康づくり研修 | 4名 |
| 12 | 徳島県強度行動障がい支援者による事例検討会 | 1名 |
| 徳島県知的障害者福祉協会施設長会 | 1名 |
| 個別支援計画作成および運用に関する研修会 | 1名 |
| 強度行動障がい支援者養成研修 | 2名 |
| 対人援助職のためのコミュニケーション研修 | 1名 |
| 福祉職に必要な法律知識講座 |  1名 |
| とくしま福祉の職場定着セミナー | 　 1名 |
| 四国地区知的障害関係職員研修会 | 1名 |
| R5.1 | サービス管理責任者等研修(更新研修) | 2名 |
| 社会福祉法人の経営力強化 | 1名 |
| 社会福祉法人会計セミナー | 2名 |
| 四国地区知的障害関係施設長会 | 2名 |
| 社会福祉法人会計セミナー | 2名 |
| 第3回生活支援部会 | 1名 |
|  | マナー研修 | 5名 |
| 2 | 企業・職域人権啓発推進協議 | 1名 |
| 日中活動支援部会 | 3名 |
| 総務部会 | 1名 |
| 四国地区政策委員会 | 1名 |
| 共感を得ることば講座 | 1名 |
| 四国地区知的障害関係施設長会議 | 1名 |
| 　　3 | 苦情受付担当者・第三者委員研修会 | 1名 |
| 第3回地域支援部会 | 1名 |
| 健康保険委員研修会 | 1名 |
| 障害福祉サービス事業所等説明会及び集団指導 | 2名 |

（２）施設内研修

外部から講師を招き人権問題と感染症対策について研修会を開催した。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年月 | 研　修　内 | 講　師 | 参加人員 |
| 毎月 | 権利擁護研修・虐待 | 参与・次長・係長・支援員 | 支援員全員 |
| R4.4 | マニュアルに関する研修会 | 参与・次長・係長 | 6名 |
| R4.5 | マニュアルに関する研修会 | 参与・次長・係長 | 8名 |
| R4.6 | マニュアル研修・移乗・腰痛予防の研修 | 参与・次長・係長柔道整復師・支援員 | 8名2名 |
| R4.10 | AED研修 | 支援員 | 4名 |
| R4.11 | AED研修 | サニクリーン　坂梨氏 | 4名 |
| R4.12 | 感染症対策研修 | 四国大学　長尾氏香川大学医学部教授　桑原氏 | 20名 |
| R5.1 | 支援の悩み研修 | 主任支援員 | 9名 |
| R5.2 | 腰痛予防研修 | 理学療法士　遠藤氏 | 19名 |
| R5.3 | AED研修体調不良対応研修 | サニクリーン　高畑氏係長 | 5名8名 |

**４ 安全と防災**

　通常の避難訓練は板野東部消防組合との非常通報装置の使用を想定して、人命救助に重点をおいた早期発見、早期避難の原則に従い訓練を実施した。日中においては、支援員が多く勤務しており、問題も少ないと思われるが、夜間は夜勤支援員2名のため避難誘導に工夫を要する。今後の課題として避難器具等の充実を進めながら検討する。

・避難訓練

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年 月 日 | 時 　間 | 火災の想定場所 | 備　　考 |
| R４．4．16 | 14:00～14:15 | 地震想定 | 2次避難場所まで避難 |
| 5．30 | 10:30～10:40 | わいわい村での大規模地震 | 大津波警報が発令された事を想定、2次避難場所 |
| 6．16 | 10:40～11:00 | 厨房からの火災想定 | 消火訓練 |
| 7．18 | 14:00～14:15 | 大規模地震想定 | 2次避難場所まで避難 |
| 9．24 | 18:30～18:45 | 大規模地震想定 | 夜間想定 |
| 11．24 | 10:30～10:40 | 地震、消火 | 水消火器 |
| 11．26 | 14:00～14:15 | 2階洗濯場 | 2次避難場所まで避難 |
| R５.1．21 | 14:00～14:15 | 地震想定 | 2次避難場所まで避難 |
| 1．29 | 18:30～18:45 | 2階洗濯室 | 夜間想定 |
| 2．21 | 9:30～9:45 | 大規模地震想定 | 2次避難場所まで避難 |
| 3．15 |  10:30～10:50 | 火災、消火 | 消防署立合で合同避難訓練、通報 |

※8/28 9/9 10/31 12/24の火災訓練はコロナ対応により中止

**５ 福祉サービス苦情解決事業**

 当園が施設利用者に提供する福祉サービスに対して苦情が生じた場合に苦情解決実施要領に基づく方法で解決することによって、利用者個人の権利を擁護し、利用者個人が施設において尊厳をもってその人らしい自立した生活が送れるように支援した。

　⑴福祉サービス苦情解決事業、受付体制

　・苦情解決責任者　西川美佳　（春叢園園長）

　・第 三 者 委 員　日切加奈子（仁栄会監事）　福岡公典（支援者会会長)

 ・苦情受付担当者 満村宏典・七條阿加里(生活支援員)

⑵福祉サービス苦情解決関係者会議

　　　【日時】　令和５年５月１１日（木）午後１時３０分から

　　　【場所】　地域交流室

　　　【出席者】第三者委員：日切加奈子　福岡公典

　　　　　　　　法人事務局：平島誠司

　　　　　　　　春叢園　　：西川美佳　箕浦正将　満村宏典　田中綾

　　　　　　　　ねむのき　：中川美幸　有井有里

　　　　　　　　相談　　　：山田憲　　正札陽子

令和4年度苦情受付状況について

|  |  |
| --- | --- |
| 　項目 | 受　付　方　法 |
| 来所 | 電話 | 意見箱 | 郵送 | その他(連絡帳) | 合　計 |
| 令和4年度 | 苦情 | 相談 | 苦情 | 相談 | 苦情 | 相談 | 苦情 | 相談 | 苦情 | 相談 | 苦情 | 相談 |
| 0 | 0 | 0 | 　0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |  1 |  2 |

**６　新型コロナウイルス感染状況**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 入所利用者 | 通所利用者 | 職員 | 合計 |
| 44 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 7 |  0 | 0 | 0 | 0 |
| 8 | 3 | 7 | 2 | 12 |
| 9 | 3 | 0 | 2 | 5 |
| 10 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 11 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 計 | 6 | 10 | 6 | 22 |

　8月～9月にかけて施設内クラスターが発生、10月と12月、3月にも通所利用者と支援員に陽性者が出たが入所利用者への感染は無かった。

**７　第三者評価について**

　令和5年2月1日、2日に徳島県社会福祉協議会による第三者評価を受審した。

5月25日に審査結果が届き、内容確認を行い評価結果の公開に向けて進めている。